

令和八年度 神村学園中等部入学者選抜学力検査問題 【一般Ⅰ】その1

国語 (五十分)

一 美海は、転校してきたばかりで道が分からないアキトを公民館まで送ることになった。その道中で、美海の祖母の年齢について、アキトが「平均寿命まであと十二年」と言い出したため、美海はおどろいてしまう。次の、美海のせりふから始まる場面を読み、後の問いに答えなさい。

「ふつういわないよね、そういうこと」

「ウソはいつてない」

アキトは悪びれもしない。

「ウソじゃなければなにをいつてもいいってことにはならないよ」

「そうか。れいの、空気読めってやつか」

ひとりごとみたいにつづける。

「空気読むのがそんなに大事なら、なぜ授業にしない？ 音読の時間みたいに空読とか。くうどくがしっくりこないなら、そらよみていつてもいい。あ、天気予報とまちがつてもいけないから、エアよみ？ いや、それだと黙読のことになってしまふな」

「あのさー」

② 前にまわって、アキトの足を止めさせた。

「こんなこといったら相手がいやなきもちになるって、わからないの？」
アキトは「わからない」といった。

「もしいやなきもちになったら、そういつてくれたらいい」

「いちいちいわなくても、わかるとおもうけど」

「いや。いつてくれなきやわかんね」

「ふつうはわかるよ」

「ふつうってのも、わかんね」

「なんだったらわかるの？」

「心からのことばならわかる」

「心からのことば？ なにそれ。ばかみたい」

「だったらばかでいい」

③ 「はあ？ これじゃ、あたしのほうが悪いやつみたいじゃん」
なぜかあせつてきて、アキトをにらんだ。

アキトはとほうにくれた顔をしていた。

ほんとうにわからないのかもしれない。

いつていいことと悪いことのさかい目が。

④ このまっ黒いあめ玉みたいな瞳では見えないのかもしれない。

でも、にがてなものはこくふくしたいと、アキトはいつかいつていた。炭酸だつてのめるようにがんばっていたではないか。

見えないのだったら見えるようにしてほしい。相手にどうおもわれるのか、わかる努力をしてほしい。正直なせいで人にきらわれ
てしまうなんて、^⑤そんなおかしな目にあいたくはないはずだ。

そうおもうものの、なぜかすっきりしない。

あたしは頭をぶるんとふるって、また歩き出した。

頭の中がごたつてきたら、とりあえず歩くのだ。ほんとうにかんがえなくちゃいけないことがわかってくる。足をとんとんと動

令和八年度 神村学園中等部入学者選抜学力検査問題 【一般Ⅰ】その2

国語

(五十分)

かすうちに、どうでもいいことはふるいにかけてみたいに落っこちて、大事なことだけが残ってくるのだ。

やみくもに歩いていたらつまずき、とっさにアキトに手をつかまれた。

つかまれて立ちどまったら、ひとつの疑問が胸にひっかかって残っていた。

自分はどう？

あたしは人にきらわれないよう、いやなきもちにさせないよう、そればかりを気にしていた。

自分のきもちは、ほったらかしのままで。

それでよかったのかな。

人にきらわれる前に、自分をきらいになつたりしないのかな。ほんとうにだいじょうぶなのかな、あたし。

「だいじょうぶか？」

アキトがあたしの目をのぞきこんでいた。

ありえない。自分で自分をきらいになんてなるはずがない。

「平気だよ」

つかまれていた手を離した。

また先に立つてずんずんと歩きはじめた。

家への道を曲がらずに、大きなもみじのそばを通りすぎた。

もみじの葉っぱに、ひざしが赤く透けている。

あの道を曲がった先には古い家がある。

そこにはばあばがいる。いつでもあたしの帰りをまっけてくれる。

おかえりの声、料理のにおい、あたたかい部屋、毎日まちがいなくあるはずの時間。

平均であと十二年とアキトはいった。

いつてはいけないことなのに。

もしもいつか起こること、ホントのことだったとしても、いったらいけないこともあるのに。

そんなこともわからないアキトは、どうしたってまちがっている。

正さなくちゃならないのはあたしじゃなくて、やっぱりアキトのほうだ。

公民館の見える交差点までやってきた。

「ここまで来ればわかるよね」

「ここって？」

アキトはきよきよとして、まだよくわからない顔つきだったけれど、あたしは信号を指さした。

「ほら、あっち。早くしないと信号が赤になっちゃうよ」

アキトはよろけるように、あわてて交差点をわたっていった。

いっしゅん、まよった子犬を放した気分になった。

(安東みきえ『ワルイコいねが』より)

※ 日本の女性の平均寿命は、二〇二四年時点で八三・一三歳である。

問一 —— 線部①「悪びれもしない」について次の() に当てはまる語を、本文から二字で書きぬきなさい。

美海の祖母の年齢が、「平均寿命に達するまであと十二年」なのは、() ではないから。

令和八年度 神村学園中等部入学者選抜学力検査問題 【一般Ⅰ】その3

国語 (五十分)

問二 美海が、——線部②のように「前にまわって、アキトの足を止めさせた」のはなぜだと考えられますか。次の()に当てはまる表現を、本文から(1)は三字、(2)は五字、(3)は二字で書きぬきなさい。

美海を(1)きもちにさせたことに気づかないまま、(2)のように「(3)を読むこと」について話し続けるアキトと、ちゃんと話したいと思ったから。

問三 ——線部③「なぜかあせってきて」について、美海が「あせって」いるのはなぜですか。最も適当なものを次のア～ウから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の考えがアキトにうまく伝わらないから。

イ アキトのせいで帰るのがおそくなりそうだから。

ウ がんばって話したことで、暑くなってきたから。

問四 ——線部④「見えない」について、アキトに「見え」ていないものは何ですか。本文から十五字程度で書きぬきなさい。

問五 ——線部⑤「そんなおかしな目」とは、どのような事態のことですか。本文の表現を使って、二十字以内で説明しなさい。

問六 ——線部⑥「ひとつの疑問」とは、どのような疑問ですか。「きもち」という言葉を使って、四十字以内で書きなさい。

問七 ——線部⑦「だいじょうぶか？」と、——線部⑧「平気だよ」について、それぞれ何のことについて話していますか。最も適当なものを次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は二度使えません。

ア きらわれていること。

イ つまづいてしまったこと。

ウ 自分のきもちのこと。

エ つかむ手の強さのこと。

問八 ——線部⑨「あの道を曲がった先には古い家がある」について、このときの美海のきもちとして最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 古くてもすごい祖母の家がだいすきなので、楽しみなきもち。

イ 祖母の家へ行くまでの道をまちがえてはいないか、心配するきもち。

ウ いったはいけないことをいうアキトを、祖母と会わせたくないきもち。

エ 祖母との時間が、これからもあたりまえのように続くと信じたいきもち。

問九 ——線部⑩「正さなくちゃならないのはあたしじゃなくて、やっぱりアキトのほうだ」について、アキトは何を「正さな」といけないのか、考えて書きなさい。

問十 ——線部⑪「まよった子犬を放した気分になった」とは、どういうことですか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 落ちつきのない子犬のようなアキトにふりまわされて、つかれてしまったということ。

イ 赤ちゃんのように何も知らないアキトのことを、腹立はらだたく思っているということ。

ウ まよっていたアキトを無事に公民館まで連れてこれたので、ほっとしているということ。

エ 知らないことの多いアキトにどうしてあげたらよかったのか、心配しているということ。

令和八年度 神村学園中等部入学者選抜学力検査問題 【一般I】その4

国語 (五十分)

問十一 本文の描写からわかる、美海が言いそうにない内容として最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 言い合いをした相手に対して、「あたしが悪かった。ごめんね。」とあやまる。
- イ ちいさな子どもに対して、「人のものを勝手にとってはいけないよ。」と教える。
- ウ 病気で休んでいた友だちに対して、「体調はだいじょうぶなの。」と心配する。
- エ 車いすに乗ったおばあさんに対して、「もうすぐ死ぬんですか。」とたずねる。

二

次の文章は、新素材「MOF」を開発し、二〇二五年にノーベル化学賞を受賞した北川進さんのインタビュー記事です。これを読み、後の《きまり》にしたがって作文を書きなさい。

研究は一筋縄ではいきませんでした。一九九九年、米国で研究者の集う「ゴードン会議」で発表したところ、「そんなの本当か」と集中砲火を浴びました。「ホテルの暑い部屋の中で、涙か汗か分からないものを流しました」。それでも長きに渡る研究の末、MOFの開発に成功。複数の種が混ざった気体から特定の気体を取り出す「分離」、穴の中で別の気体に変える「変換」にも応用を広げました。八日の会見で、これまで苦労が「数限りなくあった」と話しました。それでも「(科学者には)興味をもって挑戦するという姿勢、ビジョンが必要だ」と地道に研究を続けてきたそうです。

(朝日中高生新聞二〇二五年十月十二日二六二三号二面)

《きまり》 ① 作文のテーマは「**わたしが挑戦したいこと**」です。

- ② 最初の一マス目から書き始めましょう。(段落を作る必要はありません。)
- ③ 句読点(「」や「」)は、行の初めのマスに書いてはいけません。
- ④ 字数は、百六〇字以上を目指して書きましょう。

三

次の問いに答えなさい。

問一 次の——線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。

- ① 理科室にある磁石。 ② 水蒸気が立ちのぼる。 ③ 教室の異変に気づく。 ④ 父は看護師だ。
- ⑤ 河の沿線を歩いた。 ⑥ 広いウチユウの不思議。 ⑦ チイキの祭りに行く。 ⑧ 有名なエイガを観る。
- ⑨ 文化祭でゲキをした。 ⑩ 祖父は町でショウバイをしている。

問二 次の各文の主語・述語を、ア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、②には倒置法が使われています。

- ① ア大阪の イたこ焼きは ウやわらかくて エおいしいです。
- ② ア遠くから イ聞こえる ウ音楽隊の エ演奏が。

問三 次の各文の——線部が修飾している部分を、ア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① ア友達が イ国語の ウ問題を 簡単に エ解く。
- ② ア明日、 先生と イ中庭に ウお花を エ植える。

問四 次の漢字の部首名をひらがなで書きなさい。

- ① 開 ② 招 ③ 駅 ④ 重